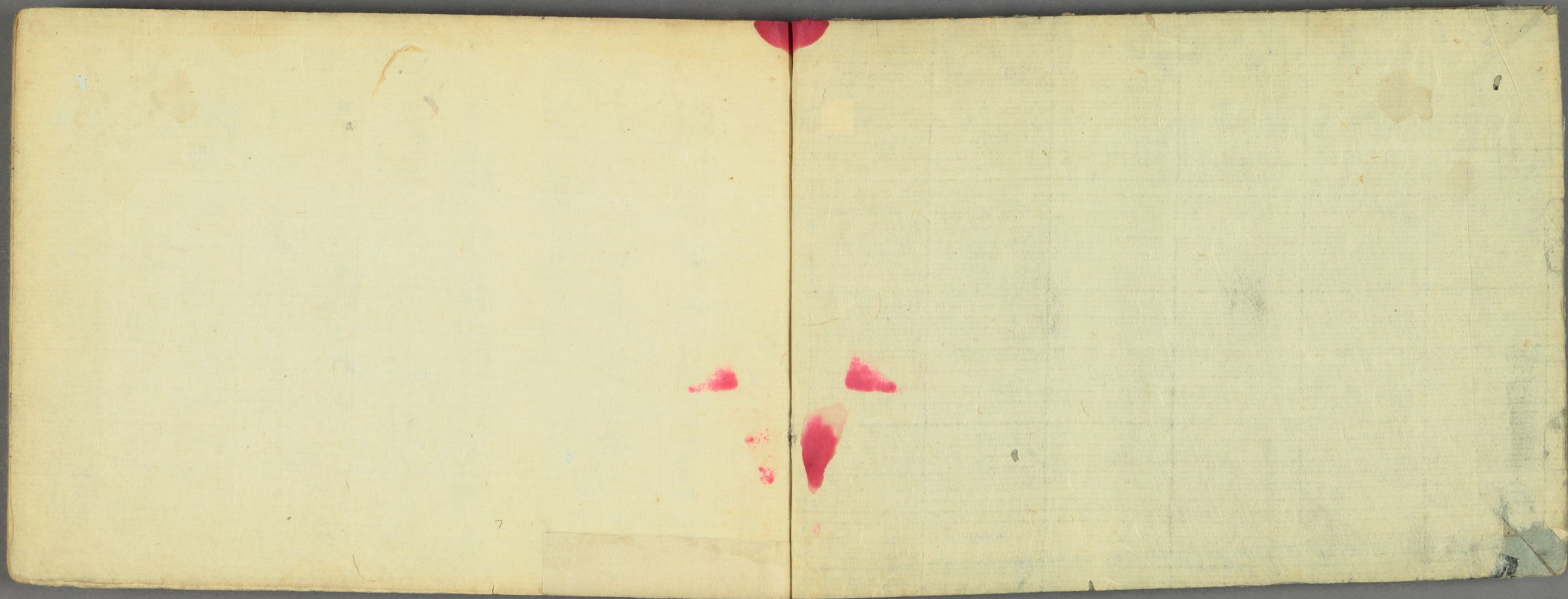


手鑑
仕譜

物
子
満
集







禪翁正天素陸東松

和字之序

天田照春

名氏能四季文集阿

文章雙集去人

九月能餘情阿

書卷

几邊に左右

初也書體

漢字乃如

表を

表を

表を

良男之割く者之為也
能きよの経典助に其
茲に梅吉老人借方り
切け免る利法家此中懐
きけらひあはし梓尔
出にそのをきく信子庶
敬きききききききき
息内流仕のいれきき
機柔多様ハ初に之也
乃ぬ千一子印の儂きハ

許子東苑の文書に讀か
あし行由て序をきき
予也ふ千世に文章
も愛度書をらき筆
の迫ると稱き其語の因
ハ東にききききき文
東ら歌しきききき
驛老の書しききき
わききききききき

庚子冬

艾園山陰



目錄

一俳諧年頭杖真

梅室

一同 行

淡叟

一同 草

鼎龙

一同 返事

岳鳳

一年玉禮杖

道彦

一上京誘引之杖

鶯宿

一二の替評判申老杖

百堂

一句集披露之杖

氷杓

一嵐山満花問合杖

必山

一笠着俳諧誘引之杖

其瓊

一鳴戸之汝干誘引杖

素屋

一住吉之汝干誘引杖

吐屑

一忠度之古樞誘引之事

九齋

湖之長歌披露杖

蕙逸

一 杉山 俗名の方(考)杖

呂國

一 旅中同伴之礼杖

いさこ

一 端午乃節句杖

梅價

一同

井竹女

一 逆櫓之松の隣(行)杖

西月

一 時鳥之玉章清引之杖

山蔭

一 修学院御幸申考(杖)

太老

一 翁稼農句聞(考)杖

井賢

一 万句集申考(杖)

奇洞

一 漢和附句返事

超然

一 中元之雅杖

萬籟

一 伊勢(考)音信杖

五株

一 筑紫(考)音信杖

桃五

一 尾陽之調物到未礼杖

杜春

一 月見誘引之杖

祇杖

一 新米一袋到未礼杖

米友

一 旅中義仲寺訪杖

賞居

一 旅宿(茶)考(杖)

杜鷺

一 京都(考)音信杖

月士

一 句評申考(杖)

虚白

一 晝祭(礼)杖

可都里

一 東武(考)の返事杖

遅流

一 梅室瓢之文章申考(杖)

乙鷺

一 口切誘引之杖

井左

一 自画(濱)別(考)考(杖)

紫人

一 時雨會之杖

塀山

一 歌仙之詔申考(杖)

蕉雨

- 一今是、摺物強事 休叟
- 一伊豫小松、返事 有節
- 一短冊認名、返事 雄閑
- 一浪花、音信收 楓良
- 一高楚、音信收 平山
- 一四國集札收 吳月
- 一野山之方言問合、收 春分
- 一石印出来札收 太華
- 一柴居十三回忌集冊、收 葛三
- 一尾陽、文通 鶴叟
- 一鮑到來札收 かろ
- 一天満宮地、集冊、申書、收 天来
- 一翁之文章

已上

俳諧年頭收之真

啓事、陽之吉、瑞子、里
 同、陳、玉、如、玉、認、申、納、片
 先以
 貴、體、信、法、系、有、安、之、收
 勢、勢、集、祝、中、在、他、在
 恐、加、之、信、信、之、信、信、信、信
 子、在、在、在、在、在、在、在、在
 勿、得、子、子、之、右、里、山、來
 子、之、之、之、之、之、之、之、之

多岐の御時辰

山崎の辰

梅の辰

子とまの辰

能の辰

星

欽風雅書

結の辰

まの辰

字とまの辰

色とまの辰

辰

目とまの辰

辰

みまの辰

牛の辰

同上 行之文

あしあしきりて月

新祿を降るるに賀

聖上の御下り

申候有也清雅之身

清雅の身

皆かまふ事歎き給ふ

葎弁に其美談迎奉る

今頃休之に下り給

有隙は後御申上座

如所は在るに候

あはれ

初まをさる 公時

七月、様

知有御下り

去るの都に合は

く

昔、勝也御下

一書を以て

押此し

いふこと

同上 草之文

梅 梅之佳者 梅之

く 梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

梅之佳者 梅之

Handwritten cursive script, likely a signature or name.

Handwritten cursive script, possibly a date or specific reference.

信印南校

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

同上返事

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

海老の汁を煮たて
 の汁を煮たて
 の汁を煮たて

五風

五風

五風

年玉之礼

五風

此部二房出

ちとちと

念具

こ外し

具

正月

雲生

松生幼年之時、東武に在り、
金令舎門人、中比令法風
拖歴、と、龜牆梅左と云ふ

上京誘引之状

所を包む

産国産物

志の

西川

おん

おん

おん

おん

おん

第 四 巻 第 一 回
口 舌 争 論 最 中
先 生 居 座 聆 聴 せ
り 夫 等 一 切 無 事
お 前 へ 申 上 せ ぬ
し 儀 ぞ 申 上 せ ぬ

女 子 等 等 等

老 女 等 等

二乃替評判申上るに收

初 年 の 志 鞞 云 々
去 々 々 々 々 々 々
芝 居 座 席 皆 洒 落
々 々 々 々 々 々 々 々
々 々 々 々 々 々 々 々
々 々 々 々 々 々 々 々
々 々 々 々 々 々 々 々
々 々 々 々 々 々 々 々
北 中 人 ち ち 八 戸 川 屋 等

つらぬき人枕る子深く
言をいれぬる子歳
執取れ銀、中布
の笑味、その罪とく
簪、細始、く、新布
以送、布、将、た、い、の
芳、原、忍、良、今、感、を
い、ま、ま、お、深、の、信、を、切
為、代、未、更、大、河、く、云

拙多お、磨、を、上、取
付、く、尤、一、種、一、類、い
携、り、お、馬、先、奔、先、見
心、の、初、見、留、り、心

中和七日 百廿七

答 推 中 人 見

身 挿 山 孫 引
那 ち ち 鞋 一 人

句集披露之状

九丁

無情様嬉遊を承りて
殆香を存し然ハ又亦ハ
葉か未だ河つ先ハ三付
備貴覧しハ於玉白情
のりし事叙さし

氷狐

あつちのりてのりし事叙さし
引くも余所々ありて
人か先ハ叙しし情たしハ寺ハ

嵐山之満花問合之状

はるかに霞、時ハ未だ
斜陽を以て佳物欣
之至、其佳貴境留
梅花之満生を大抵
何日頃、あ亦成
快也と云、其ハ鄙地
獲たのち梅の花ハ之

修後、美酒、所寄
至とて、ある本懐、
五、所、所、所、所、
不乙

如月歌 必山

暖味

丈、所、所

田の、乃、之、之、
中、と、あ、空、あ、り、那
は、所、所、所

笠着俳諧誘引之杖

御、所、所、所、所、所、所、
無、所、所、所、所、所、所、
は、所、所、所、所、所、所、
柳、心、軍、あ、り、際、お、金、龍、山
笠、着、者、俳、諧、無、り、と、公
る、の、所、所、所、所、所、所、
見、ん、所、所、所、所、所、所、
あ、り、所、所、所、所、所、所、
志、く、所、所、所、所、所、所、
な、れ、か、所、所、所、所、所、所、
し、の、ら、て、風、月、と、狂、信、

年しき色花をく好む連
平家のいしほ橋引てり
解きし部曲を誅す

二月十六日 三橋

古鏡社兄

おしやうなうく申す如桑屋の
いしほ橋引てり

いしほ橋引てり

おしやうなうく申す如桑屋の
いしほ橋引てり

鳴戸之潮干誘引之收

けいしほ橋引てり

いしほ橋引てり

鳴戸之潮干誘引之收

おしやうなうく申す如桑屋の
いしほ橋引てり

いしほ橋引てり

鳴戸之潮干誘引之收

おしやうなうく申す如桑屋の
いしほ橋引てり

いしほ橋引てり

鳴戸之潮干誘引之收

おしやうなうく申す如桑屋の
いしほ橋引てり

まゝにまゝにまゝに

あまのこころ

まゝにまゝに

りり

まゝにまゝに

まゝにまゝに

の月

まゝにまゝに

住吉之潮干誘引之故

潮干の誘引は

まゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝに

宮女に侍る新女
宮に侍る新女
一宮に侍る新女
二宮に侍る新女
三宮に侍る新女
上巳 古暦
古暦に侍る新女
古暦に侍る新女
古暦に侍る新女
古暦に侍る新女

忠度古極誘引之状

一宮に侍る新女
二宮に侍る新女
三宮に侍る新女
四宮に侍る新女
五宮に侍る新女
六宮に侍る新女
七宮に侍る新女
八宮に侍る新女
九宮に侍る新女
十宮に侍る新女

常々此を思ふ梅つゝ
自よりいやはるるの
終を帰るる存るる
のこも世間此れ九
波尾の志のりや
能くありと云

さきより今世のあり
雅なまをうけり
これくはれまはれ

やうなまを

喜ぶまを

（巻終）

同名之方へきん杖

未得半喜むはれは

皇緒と杜る情小ぬ

押板公怒る海國

中へ雅也子同候

好まぬを心へ

波尾の志のりや

能くありと云

高江由緒
梅子空船急
重便中略

初五日

呂園

イヨ西条
呂園換

現
真
弟

旅中同伴礼状

半礼
先人
年
仕
仕
後

四月廿七

いさみ

卓池様

竹植多枕ふ

ちりま

あり部

ちりま

端午節句之状

解しつゝもらふ

く、おさるうら

后のかり、競馬

のこしじりふり

たし、る物、た

ちりま、ちりま

ふくねくさうき

花のゆくは

ふくね

つゆのゆく

花

子代柳

花のゆく

花

同上

花のゆく

花

花のゆく

花

花のゆく

花

花のゆく

花

花のゆく

花

花のゆく

花

花のゆく

山崎のあまの

うら

ちかひのうら
あまのうら
あまのうら

さゆら

井

あまのうら

あまのうら

たうら
あまのうら

あまのうら

あまのうら

逆櫓之松之隣、行收

あまのうら
あまのうら

あまのうら

あまのうら

あまのうら

あまのうら

あまのうら

あまのうら

あまのうら

あまのうら

あまのうら

時鳥之玉章請引之收

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

時鳥之玉章請引之收

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

あはれおとも

師は法華經の如來生を
りてとて多し。のり多
其法華山年を久しき
きうに川にわたる子紙
も〜あはる善橋と
料理多しう〜
申〜し〜う〜はと
存〜る〜遠〜是〜此〜
文分多其是此此

行〜る〜子〜
井の公控との博有
ま〜る〜あ〜
お余らまらうらつと
め〜る〜中〜

五月廿一日 光

山外雜仙

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

公翁塚農句聞ニキル杖

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

あつちー出村乃

行々々々々々々々

以中中中中中中中

あまを月井の鏡

子照集

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

万句集申巻杖

一々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

之々々々々々々々

おんこころ
の
しるし

あはれ
の
こころ

こころ

漢和附句之事

こころを 心程駕 幸在礎と

その心程を 扱ひ受く

聖生

心程 詩文を 濠

心程 心程 出た

心程 心程 心程

心程 心程 心程

心程 心程 心程

心程 心程 心程

心程 心程 心程

心程 心程 心程

悪徳を習ふ所のあり
 ありし詩を此作らば
 新眉のりそ敢てまじ
 は海客の心を斬首

六月二日

超然

善好雅志

此安を至眼小箱えりよの
 坊主

緘月穿新樹

中元之雅杖

世に端乃端のまじ
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり
 せしむるやまじり

園とてさくさくありて

葉自落る方 五株

或田吉と申す人

の書やあまのりま本

評原をそそぐはあふ所

たゞこれか 園とて 在りてのふ

新抄とて後記あり
おもしろくも

簾紫と金の文通

無上清安の如くを斜

有似然、陽の側とて

ぬ消るる月正輝く影を

有し 有地有向 記は

玉珠のより渾る 然る

るがふおやぬ一にさ受

貝物ふるる 融雪

人の子色を踏む 融雪

かま出杖伝、ま介
行部 海苔の付 融雪

八月二日

城言

廣瀬孝暁孫

梅田新吾孫

清々あゝふおやと

くーるあゝらーあれ

人かたあ結ぬ

照るわ船あゝる

まゝ孫あゝ

新米一袋到来礼杖

なれくあつひあり

声涼丹石山とく

あゝもあ

あゝ年々祥香の月

清光を望む良夜去必

市登りを待たぬ過日ハ

早稲の白米を袋詰恵

授被下米とく友誼こ

よしの月のこゝろ愚名も

相叶ひけつそく漸柳煮

お込の一酒お徳且味

仕郡有身謝古何レ
相月下く時々の上

八月十日 小友

世波標

細中の日ま午

初もや路の月

奉公のめんくも

折戻きぬさ

吉介入し

尾列調物申きに礼杖

花れを相見付

小し清福を玉き就

先便ち相とるも速

小るもあふまをり而

道中も心痛し位お歌

よりのあはれとすわ

中絶するあの上

八月十日

杜

白尾

八方の所の

夜を

十

月見誘引之杖

月見誘引之杖
杖は杖柄に杖頭
杖は杖柄に杖頭
杖は杖柄に杖頭
杖は杖柄に杖頭
杖は杖柄に杖頭
杖は杖柄に杖頭
杖は杖柄に杖頭

夕松 山 山 山

山 山 山 山

山 山 山

山 山 山

山 山 山

山 山 山

山 山 山

山 山

山 山 山

旅中義仙寺の訪状

山 山 山 山

山 山 山 山

山 山 山 山

山 山 山 山

山 山 山 山

山 山

山 山

山 山

時々の心
おのの心
てんてん

ゆるゆる
ゆるゆる

ゆるゆる
ゆるゆる

ゆるゆる

重陽菊花を鑑収

ゆるゆる
ゆるゆる
ゆるゆる
ゆるゆる
ゆるゆる

杜
杜

鳳新峰

五五の海に歌
年かかると

心持の心
かかると
かかると

京都の文通

晴昔の月よきは
異なる花の心は
持つて風を何事
任しし心も美し
多やれ花の心は
心通る多祥なれ
春の心も心も
長し清く心も

多謝之厚心也

九月 月七

何之大人

菊が穂を

あつた

花あふ

の香がうき

句評申書に收

件秋の昔も昔も秋陰

如家下中事とて秋調之

花あふ花あふ花あふ

花あふ花あふ花あふ

花あふ花あふ花あふ

花あふ花あふ花あふ

花あふ花あふ花あふ

花あふ花あふ花あふ

花あふ花あふ花あふ

乙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...

素馨之礼状

乙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...

廿一

のこしつておれ 七の舞し

あしを

くしつておれ 又のれ

あの本様うれ

うたを

東都とての返事

東都月十日の返事
(中略) 身おさつておれつて
実の向實をいふは倍々
此世をいふ世のいふ事
経信友に連中がいふ事
伊波心 中いふに法骨
おれおれ之れとて中
身は信有るに中
よめおれに事法中
名はももあはれ
さきさきおれ

廿一

接すべし之也

茶の味を認む

茶の味を認む

此れは茶の味を認む
其の味は清く爽やかに
口にすると其の香気は
喉を潤し心身を涼し
しむるに最も宜し

茶の味を認む

茶の味を認む

茶の味を認む

茶の味を認む

茶の味を認む

茶の味を認む

物由之

深草

口功誘引之杖

倍の茶の味を認む

口功誘引之杖

茶の味を認む

口功誘引之杖

茶の味を認む

口功誘引之杖

茶の味を認む

口功誘引之杖

茶の味を認む

口功誘引之杖

茶の味を認む

櫻翁の外有て古今に續
けし中傳は然るに因あり
茶花をよき事なりと傳
ふは是れ其の意を舞ひ
ふ多れ同志の風を一面
此後引て中を引て之
少傳り不果

上と下

祇白詞也

井上

山平生喜するは
幸能同と見つるや
是より心花と
下は
し

自白別席申事

名
心
心
心
心
心

あつたてのうた

あつたて

あつたてのうた

あつたて

あつたてのうた

あつたて

時雨會之事

あつたてのうた

あつたて

あつたてのうた

あつたて

あつたてのうた

あつたて

あつたてのうた

あつたて

十月十一日

石山

里々上人

と心

去りて葉なき

市乃大根の家

尾かしの瑞穂

のこるく浮草を

はをばら

歌仙服申巻尺

玉子あはれ
わが算子
はらけも
いふまゝ
かたはら
り

大にわたり
茶の世に
おこす日
湯に
位に
おれ

川に
いふ
おれ
おれ
おれ
おれ
おれ
おれ

今是、櫛物様々收

本、七尾赤、信長様御
御心懸り、是れ櫛心
存心、花、月、日、時、
各々、御心懸り、御
心懸り、御心懸り、
御心懸り、御心懸り、
御心懸り、御心懸り、

~~~~~ 休書

急也 御心懸り  
~~~~~

小松より来收返事

糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、
糸を厚くぬん、御心懸り、

~~~~~

るいんくらしきしきしき  
まのちしきしきしきしき  
はしきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしきしき

十

しきしき

しきしき

しき

短冊頼き返事

こいしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき  
しきしきしきしきしき

浪花とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

浪花とるまの文音

先しつとるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

とるまの文音

たつらうに伝へしとまてあ  
徳川の持世ありあの  
能く清ききしし之興味  
きりしうとたま

あ~~~~~かた

無畏

禾々々

花~~~~~

~~~~~

~~~~~

野山とまの文音

あはれと大破こころは  
さるる俄に十六日  
たふさふさの  
静の月のかげに  
あはれと大破こころは  
さるる俄に十六日  
たふさふさの  
静の月のかげに  
あはれと大破こころは  
さるる俄に十六日  
たふさふさの  
静の月のかげに







みづ田石田中平の  
 石印出来礼状  
 石印出来礼状  
 石印出来礼状  
 石印出来礼状  
 石印出来礼状  
 石印出来礼状  
 石印出来礼状

石印出来礼状  
 石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状

石印出来礼状



あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

尾筋ららるの文通

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

五條じさあま場  
あまこ中あま

三月十日

あまのりさう  
白川あまのり

杜統る様 鴨更

河豚到来礼状

集里雲系洋ん侍  
孫の安令甘孫あま  
以玉産したまは  
投生あま孫の好物  
少儀悦洋味侍り  
の礼のりさう  
終途滞り候

蟻月の

如志

沙鷄標

無三第也

子時其をるす

尼人

得い

天満宮地築銀ひ申合す收

部(市)吉(福)松(平)森  
梅(古)坊(の)た(ら)ま(に)是  
嗣(市)々(市)井(原)々(市)  
は(ま)ま(に)古(河)糖(は)見  
り(の)清(水)々(市)而(其)使  
甘(中)々(市)在(其)屋(々)々(市)  
う(給)々(市)坊(原)々(市)々(市)  
お(う)々(市)生(人)々(市)々(市)  
物(致)々(市)々(市)々(市)  
組(山)々(市)々(市)由(借)々(市)  
可(物)々(市)々(市)々(市)  
わ(て)々(市)々(市)川(崎)々(市)  
清(宮)々(市)々(市)清(工)々(市)々(市)  
赤(旗)々(市)々(市)々(市)々(市)

多し居るものや早も砂持  
新は先地つよふ石籠の中  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も

十一丁

二文

懐橋精護

多し居るものや早も砂持  
新は先地つよふ石籠の中  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も  
早もつよふものや早も

翁之文通

一 持たざるものや早も

持たざるものや早も

持たざるものや早も

持たざるものや早も

持たざるものや早も

んが

腕

乃如...  
 了...  
 對...  
 乃...  
 酒...  
 乃...

乃...  
 乃...  
 乃...

浴 枯 更 堂 取 藏

飛... 梅 龍  
 雲... 龍  
 風... 龍  
 映... 龍  
 在... 龍  
 占... 龍  
 仲... 龍  
 下... 龍  
 從... 龍  
 交... 龍  
 際... 龍  
 小... 龍  
 刺... 龍  
 蟻... 龍  
 行... 龍  
 函... 龍  
 花... 龍  
 案... 龍





干爲緘之... 仕あけり... 現記書ハ... 諸事あつと... 存降ハ... 方丈乃... 統事... 降戸乃... 何一其の... ちつろろ

龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍

初老自祝

若ぬれ... 大ぬ... 後玉... 足... 出... 長... 山... 美... 出... ち... 九... 梅... 梅... 茶

山 龍 升 斗 女 魯 道 文 江 存 丸 宗 仙 礪 山 壽 仙 電 岳 九 次 梅 倉 梅 寺 橋 茶 院

遠き法々々積舟也甚乃月 柳言  
 括くもり南くまそくゝあま氣 沙節  
 ちんちんちん廿乃入んぬちんちんちん ちんち  
 吹きしち梅のちんちんちんちん ちんちん  
 折さくちんちんちんちんちんちん 玉只  
 佐保姫乃裾のちんちんちんちん 浦人  
 時を直ちんちんちんちんちんちん ちんちん  
 ちんちんちんちんちんちんちんちん ちんちん  
 一梅まあちんちんちんちんちん ちんちん  
 ちんちんちんちんちんちんちんちん 乙船  
 ちんちんちんちんちんちんちんちん ちんちん  
 ちんちんちんちんちんちんちんちん ちんちん  
 ちんちんちんちんちんちんちんちん ちんちん  
 ちんちんちんちんちんちんちんちん ちんちん  
 ちんちんちんちんちんちんちんちん ちんちん

月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船  
 空介 竹兜 完耕 意雲 宿岳 砂舟 井塚 良岫 文路 純徳 邦子  
 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船  
 空介 竹兜 完耕 意雲 宿岳 砂舟 井塚 良岫 文路 純徳 邦子  
 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船  
 空介 竹兜 完耕 意雲 宿岳 砂舟 井塚 良岫 文路 純徳 邦子  
 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船  
 空介 竹兜 完耕 意雲 宿岳 砂舟 井塚 良岫 文路 純徳 邦子  
 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船  
 空介 竹兜 完耕 意雲 宿岳 砂舟 井塚 良岫 文路 純徳 邦子  
 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船  
 空介 竹兜 完耕 意雲 宿岳 砂舟 井塚 良岫 文路 純徳 邦子  
 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船 月船  
 空介 竹兜 完耕 意雲 宿岳 砂舟 井塚 良岫 文路 純徳 邦子

揚るるあわらうすを風の子際ぬ 一より  
 ほの(一)と一右はむむ梅雨ぬ 虫子  
 明くくも鐘聲のそら響く小夜 素梅  
 大なる白敷も流す守り鳴くくあ 阿毛  
 引替りや海一をぬよりり争ぬ 菓桂  
 捨ぬくくも追へばはるはをぬぬ 黄甫  
 山の山くたあをぬぬすのす花をぬ る花  
 葉の葉乃をさふぬぬてはぬぬあ 香野  
 ぬはぬぬとねぬ(一)細子や物を花 洒芳  
 花をぬぬ(一)流すもぬぬぬぬぬぬ 白佛  
 おもすからぬもぬぬぬぬぬぬぬ 梅家  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 農友  
 らぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 漢村  
 花のぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 国士  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 菅岬

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 舟業  
 おぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 文書  
 下(一)ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 探所  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 素梅  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 花業  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 助室  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 十交  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 御舟  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 曲阜  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 世一  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 花の  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 扇三  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 松花  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 表声

言乃梅川幅世... 菅桂  
 乃梅川幅世... 時人  
 吉方乃... 慈山  
 好... 良化  
 月... 喜空  
 其... 馬山  
 其... 鼎花  
 其... 沈史  
 竹... 梅家  
 松... 杜鷲  
 釣... 古光  
 角... 林曹  
 古... 相心  
 西... 班作  
 玄... 希原

後... 愚種  
 み... 花調  
 尚... 紫人  
 お... 南旧  
 女... 壽殿  
 其... 亭事  
 山... 梅寛  
 の... 台人  
 竹... 生章  
 時... 少翁  
 櫻... 痛丈  
 引... 兵交  
 相... 双松  
 紫... 狐友  
 女... 喜翁



涼さや下結たよあか〜四あま〜 梅佐  
 掃除〜あま用た〜と終の終 墓園  
 ち〜梅やひと辰か〜と怪紙竹 枝月尾  
 糸のち〜むあ〜と半くあ〜と乃川 糸止  
 龍〜ひあ〜とあ〜とりあ 龍 河 ぬあ  
 子〜とあ〜と〜と〜と〜と〜と〜と 糸共  
 魚〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 操足  
 稲妻乃〜と〜と〜と〜と〜と〜と 二空 山崎  
 〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 子空  
 一〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 祖心  
 稲妻や〜と〜と〜と〜と〜と〜と 崔史  
 ち〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 龍児  
 七々や〜と〜と〜と〜と〜と〜と 西岑  
 子月〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 明良  
 梅花露〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅室

龍〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 後石  
 梅室〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 方光  
 梅山〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 風朗  
 梅〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅左  
 尾魚〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 尾魚  
 梅村〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅村  
 梅意〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅意  
 素妻〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 素妻  
 而〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 而  
 梅十〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅十  
 五徳〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 五徳  
 二院〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 二院  
 梅勇〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅勇  
 梅室〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅室

新かゝる海女もさうな月 松入  
 松の葉もさうな月もあはし 五輪  
 白根よりも休まぬさうな月 曾州  
 有るもあはしな月もはつと 呂宋  
 弁るもあはしな月もあはれ 星原  
 名月もあはしな月もあはれ 花板  
 ぬいもあはしな月もあはれ 杜若  
 ろもあはしな月もあはれ 空の  
 星原もあはしな月もあはれ 舟楫  
 月もあはしな月もあはれ 五葉  
 月もあはしな月もあはれ 三槿  
 ぬいもあはしな月もあはれ 松岡  
 ぬいもあはしな月もあはれ 雲泉  
 ぬいもあはしな月もあはれ 丹多  
 ぬいもあはしな月もあはれ 松一

雲かゝる海女もさうな月 松入  
 松の葉もさうな月もあはし 曾州  
 白根よりも休まぬさうな月 呂宋  
 有るもあはしな月もはつと 星原  
 弁るもあはしな月もあはれ 花板  
 ぬいもあはしな月もあはれ 杜若  
 ろもあはしな月もあはれ 空の  
 星原もあはしな月もあはれ 舟楫  
 月もあはしな月もあはれ 五葉  
 月もあはしな月もあはれ 三槿  
 ぬいもあはしな月もあはれ 松岡  
 ぬいもあはしな月もあはれ 雲泉  
 ぬいもあはしな月もあはれ 丹多  
 ぬいもあはしな月もあはれ 松一

夕月かあせうたあ一時の  
三光の流て松島を照らす  
雪のこたあにあられ神を  
一海をさしてまうのまう  
雲ひよをささるるしるに  
ついでに雪もよきものを  
後つてしるの響かすを  
捨てる松葉をよめか  
木かへをさしてまうの  
鯛をほすはさし  
去るて海を渡る  
南力をもつて  
雲をよきものをさして  
ついでに雪もよきものを

夕月かあせうたあ一時の  
三光の流て松島を照らす  
雪のこたあにあられ神を  
一海をさしてまうのまう  
雲ひよをささるるしるに  
ついでに雪もよきものを  
後つてしるの響かすを  
捨てる松葉をよめか  
木かへをさしてまうの  
鯛をほすはさし  
去るて海を渡る  
南力をもつて  
雲をよきものをさして  
ついでに雪もよきものを



飛鳥のあつちをゆくはたかばたか  
 雲のうらみきりておききりて  
 時をわたりて一せいのけしき  
 あけのちをきりてくちからさ  
 久しあつちをゆくはたかばたか  
 雲のうらみきりておききりて  
 時をわたりて一せいのけしき  
 あけのちをきりてくちからさ  
 久しあつちをゆくはたかばたか  
 雲のうらみきりておききりて  
 時をわたりて一せいのけしき  
 あけのちをきりてくちからさ

かくのちをゆくはたかばたか  
 雲のうらみきりておききりて  
 時をわたりて一せいのけしき  
 あけのちをきりてくちからさ

流るる二河合 枕室

亀壻梅左編  
 上田良化校

元保十一

